

三重県の中間支援センターの目指すべきあり方研究会議事概要

日 時：平成19年8月8日（水）19：00～21：00

場 所：みえ県民交流センター交流スペース

参加者：●研究員 浦田宗昭（いせコンビニネット）吉島隆子、出丸朝代（旧センター運営委員会）、中盛汀（ウィリアムテルズアップルまちづくりセンター）、井上淳之典（みえきた市民活動センター）、岩脇（津市NPOサポートセンター）●オブザーバー 北出真由美（三重県社会福祉協議会三重県ボランティアセンター）、前川浩也（伊賀市市民活動支援センター）、片山文彦（生活部生活総務室）●担当室・事務局 松野幸雄、中村敏孝、明石須美子（NPO室）

議事概要：

【開会】

- ・ お忙しい中を集まっておいただきましてありがとうございます。それでは、前回は準備会という形で中間支援の交流会の中で開催させていただきましたが、今日は第1回目ということで、始めたいと思います。まずはNPO室長の挨拶をお願いしたいと思います。

【ご挨拶】

- ・ お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。今回、いせコンビニネットから、研究提案として、「三重県中間支援センターの目指すべきあり方」について、課題の共有をしていこうということで提案をいただきました。私どもの県のセンターにつきましても、平成21年度に指定管理に移行していくということで、県で検討しているところです。そういうこともあって、今の現況を、事業の仕方といったことについて、もう一回見直しをしていかないといけないと、みなさん、日ごろ思ってみえるようなので、是非ご意見をお伺いしたいと県のほうは考えておりますので、よろしく願います。

【現状報告&本日の進め方説明】

- ・ ありがとうございます。今日はまず、最初にこの研究会自体をオープンにできたらしていきたいと思っています。今回はオブザーバーの方も参加してくれていますので、研究員として集合しますけども、開かれた会ということと、あとホームページ等でも、情報公開をしていきたいと思っています。勝手にやっていると言われると困りますので。ただ、名前は基本的には議事録には出さずに、参加者としては載せさせていただきます。誰が何を言ったという発言者の名前は公開しない方がいいと思っています。もし名前が載っていた方がいいというのであれば、それもいいかもしれませんので、どうでしょう、名前なしという形でいいですか？最後に出席者の名前は入れるけれども、誰がどういう発言をしたかというのは基本的には出さない形で議事録を公開していくということでもよろしいですか。ではそんな形で行きたいと思います。あと、議事録の関係で発言はマイクを使ってお願いしたいと思います。
- ・ それでは、今日の流れは、事項書のほうをみていただくと、まず、最初に旧センター運

営委員会のほうから、ここのセンターよりもっと前の準備会のときからのことになると思うのですが、その辺の経緯や、どんな思いでやってきたのかというところをいろいろ話していただけるということになっています。その後、私の方から伊勢の市民活動センターの検討会というものから準備をしていったという経緯もお話させていただいて、その後、地域の市町にある中間支援センター自体でどんな課題をもっているのかということも少しワークショップで出してもらって、その後で、実際三重県の中間支援センターにはどんな課題があるのかというあたりを少し出してもらいたいと思っています。今日は課題を出してもらって、少しワークショップ形式で整理できるといいかと、それくらいまでを考えています。それで、この研究会の課題というのは一応この11月12月くらいまでに出したいと思います。うちの研究提案として提案させてもらったときにはずっと研究していきますという話ではあったんですけど、少しNPO室からの提案もあるので、もうお話していただいても平気ですか？

- ・ NPO室で考えていたのは、この研究そのものが課題の共有ということですので、その課題の共有は、はっきり言ってこっちの課題として考えていますので、プレゼンテーションのときもそうだったんですけども、共に課題があるということでそういうおおよその課題も共通してそれぞれ持っているのではないかと思います。
- ・ 共有自体についてはさほど時間がかからないであろうということで、一応課題を共有したあとセンターのあり方をどうするかという話を、この課題の研究会とは別の、懇話会という形で移行させて、そこで指定管理の話もあるのですけれども、今後のここのセンターのあり方について、まとめてお話をしていきたいなというふうに考えております。実際、何故こんなことを言うかといいますと、予算的に、いま本当に手弁当で申し訳なく来ていただいているわけですが、懇話会という形でありまして、せめて旅費とか日当とかを何とか公費で負担できる道もありますので、そういった理由もあって、課題の共有の研究会とは別に懇話会という形で移行してやっていきたいということをおっしゃっていただきました。
- ・ ありがとうございます。一応、私もいろいろお願いしながら無料でというのも心苦しいところがありまして、そのほうがいいのかと思います。実際に、これは県のためのことでもあり、それで本当に民との協働のことでもあるということで、この辺はある意味甘えさせてもらうということになるのかもしれないですが、そんな方向で考えてもらえればと思っています。
- ・ 懇話会ということになれば、メンバーの扱いはどういうことになるのですか。
- ・ 誰がメンバーというのはきっちり決めます。
- ・ じゃあ、一応こちらの研究会側の考え方として、こういうメンバーで固定してやりましょうということをしていましたが、それをそのまま懇話会に持っていくのは問題はないのですか。
- ・ 問題はないですね。

- ・ 協働事業提案で採択されている中での話なので、多分、その計画でしていただいたということで OK だと思います。
- ・ オブザーバーでの参加の方には日当というものは支払われなくて、メンバーに支払われるということですね。
- ・ はい、オブザーバーには発言をしていただく時間というのは、とらせていただけるだろうとは思っています。いかがでしょう。そんな形で進めさせていただきたいと思っています。ではさっそくレクチャータイムということで、お願いできますか？
- ・ ありがとうございます。一応研究員とオブザーバーということではっきりとさせていただきましたけども意見はぜひ、オブザーバーの方もどんどん出していただければと思います。とりあえずそれで、課題出しの前に、レクチャーをお願いしたいと思います。

【三重県の中核となる中間支援センターのこれまでの経緯と今の機能】

- ・ センター運営委員会という名前が出てきましたが、センター運営委員会の前身が実はありまして、センター開設準備会というのがありました。これは平成 10 年の 4 月です。今日、配っていただいた「みえ県民交流センターの経緯」と、最初に書いてある資料の 2 番のところ、設置の経緯というところがありますが、平成 10 年 4 月に市民活動センター開設準備会を設置したというふうにあります。これはセンターの開設は、実は平成 10 年の 12 月 1 日で、NPO 法が施行された日と同じ日なんですけど、それに先立ってその年の 4 月にセンターを開設するにあたって準備会を開きました。実はどういうふうにどんなセンターにしたらいいのかというのを、市民活動をしている方々の気持ちも聞いて決めようじゃないかということでした。それと、県の方にこういうセンターを開こうという考えがあるわけじゃなかったものですから。みなさん想像してください。平成 10 年です。NPO という言葉もまだまだ社会的に認知されていない時に NPO 担当という辞令を出されておりましたが、そのときはまだ NPO 室もなかったんです。実は 10 年の 4 月 1 日で NPO 室が発足するわけですけど、その前の年は室がなくてスタッフだけが 2 人おまして、そのときからセンターを設置するという気持ちはありました。これは、「三重の国づくり宣言」という三重県の以前の長期総合計画なんです。今見たら平成 9 年の 11 月に発表されていまして、1997 年です。今から 10 年前ですけど、そのときにどういうふうに書いてあったかといいますと、市民活動支援センターを整理すると書いてありまして、1997 年のときに 2010 年度の目標は何かというものがこれに書いてあるんですけど、市民活動を支えるネットワークの構築という項目のところで、現状は白紙のところ、2010 年度の目標として市民活動を支援する組織が設立され、そしてさまざまな中間支援とのネットワークが構築されていますと、2010 年現在にこのような市民のネットワークが出来ているはずだというふうなことが書いてあるんです。ボランティア休暇は市町村 100%、企業 100%と書いてあります。そして市町村はほとんど導入されていますから 2010 年の目標を、まだ今 2010 年になっていませんけれど、すでに早い時期に三重県はクリアされていたと思うのですが、そのためのセンタ

一が要るということです。世の中にまだNPOのことばもないころに市民活動センターが要ると書いてある。それは市民活動のネットワークが要るからだ。そんな営利でもない、行政でもない、利潤を追求するでもない、その非営利な人たちのセクターがもっと世の中に認知されて力をつけるためには、そういうものがあるだろうということで、活動をしてもらったり、活動をする人たちに自信を持ってもらったりするために、やっぱり拠点があるということでセンターを作るという方法にでたわけです。いつセンターを設けるかということも、それからどこをセンターにするかということもなしに平成10年の4月に準備会を立ち上げて、どんなんにしましょうか、どういう機能があつたらよろしいですかとみんな意見を出し合って、それがまとまったのが年中無休と夜の10時まで開いているところが最大条件だったのですよね。その頃に年中無休で夜の10時まで開いている市民活動センターは全国どこにもありませんでした。とにかく早くやりたい。場所はどこでもいい、狭くてもいい。それから十分環境が整わなくてもいいからとにかく場所を作ろうということで、そういう人たちが知恵を結集して、県民サービスセンターの4階に三重県市民活動センターというものを開いた。その10年の4月に議会が、まあ集まってきた人はみんな準備会の委員だったのですが、声をかけて集まった人が30人のときもあれば10人、20人のときもあるのですが、しょっちゅう会合を開いて、その人たちが平成10年12月1日に県民サービスセンターの4階でいいじゃないかということでオープンになったということです。平成13年の4月にこっちに移ってくるわけですけど、もとを正せばそこで開設準備会のメンバーがいろいろ知恵を絞って今の母体を作って、そこで狭いながらもセンターをオープンさせて、そこを拠点としての活動がどんどん広まって行って、そのとき買った机がこの机です。要するに机だけあつたらいいだろうということでこの備品を購入しました。その後、その開設準備会が発展的に解消して運営委員会になっていくのです。オープンしましたから、じゃあ運営委員会にしようということで運営委員会になったのです。その後の説明はお願いします。

- 今お話を聞きながら思い出していたのですが、初期の頃はどのような団体がどのような活動をしているかという情報が必要だよねということから、みんなで1万円ずつお金を出し合ってダイレクトリを発行したんですよ。実費で販売ということで、こんなに分厚い冊子ができたのを覚えています。それと県の広報誌（県政だより）に我々（運営委員会の有志）が原稿を書いて約1年続きました。
- 県政だよりの裏表紙に「新しい公ってなあに」っていうのが今は出ていたけど、そこはNPOの紹介ということで、その原稿を担当したのが運営委員会だった。だから非常にうるさかったですけどね。外部のものが原稿を書くということで。
- 県の職員じゃなく市民が書いているので、広報課の担当と見解（文化）の違いから喧嘩しながらやりました。その後に、ここの経緯のところに書いていただいておりますけれども、市民活動塾とか三県（福井・滋賀・三重）フォーラムとか、いろんなものが並行

して動いていて、みんながすべてに関わるわけにいかないのでプロジェクトとして、それぞれ何人かが重なり合いながら、取り組んでいきました。全体の作り方もそうですが、センター利用のルール作りプロジェクトもみんなでこういうふうにやりたいという思いを込めました。それが今のセンター利用のルールの基本になっています。できるだけ管理的な窮屈なものにしないで、自立した市民としてこういうふうであればいいねという柔軟性をもたせたというのがベースになっています。個々のプロジェクトについては説明しきれませんが、この中の一つに“市民による事業評価検討グループ”というのがある、これが今の「評価みえ」の基になりました。強く印象に残っているのは、例えばNPO室の予算に関してもオープンで、今これだけの予算があるけれども、こうこうで使えるのはこれだけしかないからどういうふうなものに使ったらいいかという相談をしていただいて、非常に開かれた運営委員会であったと思っています。ただ、残念なことに、運営委員会のメンバーも当初はかなり活気に溢れたものでしたけれども、ある程度軌道にのっているなというのがわかってくると、あまりおもしろい話の内容ではありませんので、だんだんメンバーも少なく固定化されてきたり、各地に民説民営や公設民営などさまざまなセンターができてくるにつれて低調になっていきました。ともかく行政が一方的にこういうふうにしましょうということじゃなくて、たえず市民の側に問題が投げかけられましたし、できる限りいろんな議論が戦わされて方向性を決めていただいたように記憶をしております。まとまっておりませんが、運営委員会の説明ってこんなものでいいでしょうか？質問とかがあれば・・・

- ・ この部分でもし質問とか、この辺もうちょっと聞きたいというところがあれば・・・どうでしょう。いいですか。じゃあこのマニュアルというルールの方は資料に書いてあります。この辺はまた読んでいただいてということにしておきます。
- ・ ちょっとだけ、みなさんに。平成10年の12月1日にオープンしたのを知っているって人は・・・4人なんですよね？この4人しかいないんですよ。今のNPO室にしても知っている人はもういない。ただですね、ちょっと思いをめぐらせて認識しておいてほしいのは平成10年にオープンしたってということと、非常に早かったということと、それから今説明しましたように決め事は全部みんなが相談して決めたということで原案を行政側がもってみんなに修正してもらったりしたっていうわけではなくて、みんな利用する人があーだ、こーだ、それはまずいだらうって出るところは叩いて、それで一番みんなが納得する形を作り上げてきた。それはもう平成10年にできていたということが、この1997年の総合計画にですね、もうすでに協働って、市民活動センターと協働ってということが書いてあるのですよ。世間でいうところの県の市民活動センターではありますけれども非常に早い段階に協働の形で出発している。それが10年後の今どうするかということにきているということ、私たちは重々認識していきたいというふうに思います。

【いせ市民活動センターの事例】

- ありがとうございます。ではですね、私の方から伊勢の方が立ち上げてきたときの経緯から少し話しをさせていただきたいと思います。この三重県の市町の間支援と三重県の中核になるというようなセンターとはまた少し違う部分があるかと思うのですが、こちら指定管理者制度で早くから取り組んだってという部分もあって、参考になるのではないかということで、少し言わせてもらいたいですけど、資料の方で見てもらうと、もともとが、平成12年です。三重県のNPOから遅れること2年後、10月なので、もうちょっと遅れるかな？今のシティプラザの活用の検討というのが、始まりまして、ちょうどそれと同じくらいの頃に市民側から市民活動の拠点というものの整理が欲しいという要望が出されています。平成13年からサポートセンター設置という計画が出てきて、実際には平成15年からの検討委員会発足のために説明会を開いている。平成15年の4月から第1回検討会というのをスタートさせていきます。その中で、もともと指定管理者制度というのは全くないっていう中で、この空いている場所があってホールの場所があって、ホールというよりは今で言うとホールのもう一つ横にある南館の小さい方です。そちらの方のみで、話はスタートしました。そちらの方で市民活動の拠点というものにできないだろうかという形で検討会がスタートします。そして約半年くらいずっと検討会を続けていきまして、最終的には指定管理者制度というのが入る可能性がありますということで話があっただけで、実際に検討は市民ではされていません。やっている途中にかなり市民と行政の方では、このときちょうど1回目から4回目あたりまで、行政は何してほしいの？市民はこれが欲しい、あれが欲しいという会議の構図になっていて、意識のある人から、これはちょっとまずいだろうというような話になって、この4回目、5回目あたりの検討会で、まずビジョンを作らないといけなんでしょうという話になって急遽、伊勢市の中でのコアのメンバーでまず案を作って、検討委員会に出していくという形で設置ビジョンを作ってきました。それが平成15年の9月に正式に提言として出したというような形です。それで、実際には指定管理制度というのは伊勢市の方でどんどん、これは民で話をされています。設置条例が作られて、実際には、これは日付が書いてないんですが、指定管理者というのがその翌年、平成16年7月に指定管理者制度として伊勢コンビニネットが指定管理者になります。その作った提言書というのが後半にあるんですが、その前にちょっと、これはコンビニネットとして提案させてもらった指定管理者制度を導入した場合の自分達の考え方ですね、まあこれでプレゼンをして設置されたということになるんですが、もともとは市民活動をどうやっていくかという考えでビジョンを作って、それを基にしていると運営というリスクの部分が当然起こってきます。自分たちは、単純に市民活動を支援するだけの予算をもらっている、できないだろうというふうに考えていました。管理の費用を委託費としてもらうことで、それを削減したり予算を削ったり、もしくは、稼働率を上げることで指定管理の利用料を増やし利益を上げて、事業をより増やしていこうというような考え方です。なので、下の図にあるように民として良いサービスをしていって、市民活動は二重構造に

なっているところもあるんですが、市民活動の需要がどんどん増えると赤字になっていく。でも利用者を増やしていくと稼働率が上がって、利益率が上がって、センターの事業にお金が生まれる。そうすると、よりサービスが上がって市民活動も活性化していくだろうという中で、いま、伊勢の現状からいくと利用料が約半分、税金が半分入るような形でセンターを運営しています。そのビジョンは、こういうのを行政にしてほしい、行政はしてあげよう・してあげられないみたいな議論から、これはやばいということで作ったのが、この簡単で見やすい最初の図になっている中長期計画、これが一番見やすいです。自分たちの計画として1年・3年・6年と区切ってありますが、またやはり情報発信、情報提示が大事だろうということと、情報提供ということで作っています。それから実際のマネジメントだとか、もうちょっと具体的な支援策というのを3年後くらいにはできるようにしていこうと、その後もうちょっと大きい意味での啓発だとかパートナーシップみたいな連携のようなものとかをどんどん増やしていくって、最終的には政策提言までできるというのが伊勢で作られたビジョンの大枠で、戦略になると思います。実は自分も研究提案させてもらっているビジョンの大枠、中身は別なんですけど一応これを参考にさせてもらっています。実際のこの現状、いろんな課題がありますよというところでスタートして、その中でこんな理念を持ちましょうというのが次ですね2番です。ページでいうと16ページ、17ページに求められる役割とか機能いうものがこんなのですよと、それ2つが戦略になってくると思います。その後が運営に関する問題点、この辺は実はしてほしい、してあげるといって検討会が前半戦に続いたもので、実はこの辺は煮詰まってしまって、運営に関して課題がありますよとか、連携していきましょうとか、自主自立で運営していくのは不可能で難しい問題があるとかの問題提起みたいな形で終わっています。後半は提言としてまとめてあるということですね。正直、指定管理者になって、この提言というのが非常に役に立っているというか、これを基にして自分たちが活動していると言っても過言ではないほど使わせてもらっているので、こんなものがやはり必要じゃないのかなと思っています。この辺でもし質問があれば・・・

- 伊勢の市民活動センターの経験に期待したのは、条例をどうやって反映させてきたかっていうところとかを一番参考にしたい。センターの性格が違うので、伊勢のセンターでこうだった、といっても現実には違うと思う。どういう機能なのかっていうのは洗い直していかないとと思うのだけど、今の説明を聞いているちょっと違うかなって感じます。
- 条例自体をどう反映させるかっていうのは伊勢のときの経験で言うと、例えば指定管理者の条例っていうのは民とは話はなかったですね。ただ条例の草案、それと指定管理者制度っていう話は、以前にどういうふうな形に個々を条例化していくのかっていうのはぜひ素案は出していきたいって言うような話になっていたんで、実際出す前、これはたぶん伊勢市としては画期的だったんですけど一応見せてもらった。検討会の多分最後の

ときだったと思う。

- 見せてもらったって言うのは行政の原案、条例案をですか。
- はい、条例案を見せてもらっています。そのときに一応意見とか多少とる時間はあったんですが、そこは正直言って市民からその条例がどんな意味を持っているのかとか、この条例で運営していくとどうなるのかっていうところまでは当時わからなかったです。
- ここではそれをやりたいですよ。ぜひ。それで課題の共有というのはそういうことを言ってるんじゃないかと思うんですよ。NPO室が自分たちの思いで進むわけにはいかないので、そこをどういうふうに行けばよいかっていう情報も欲しいし、気持ちも固めたいし。こちらの。ということですよ。
- ぜひそれで、今、一応話させてもらったんですけど実際たぶんこれから、今日はそこまで進むかわからないんですけど、実際自分たちが運営して、そうするとこの条例がある為にこれができないとかいうのがあるんですね。
- それはぜひ参考にしたいと思います。
- その辺は少し説明させてもらおうと、特に一番感じているのはビジョンのところを書いてあるんですけど、自主運営をしていくのを目指したいという話があって、例えば貸館の部分に条例で貸館にいくら、ここの部屋はいくらというふうに条例で上限として載っているんですね。伊勢の場合は。そうするとよく言われるのは例えばバザーっていうのは慣例で施設はOKなんですけど、バザーのようなもの売り方、例えば本を定価で売るとか、卸してきてブックネットみたいなので1割引ぐらいで仕入れてきて売りたいなことはダメって言われるわけです。
- 非営利でも？
- そうです。
- これは条例に明記してありますか？
- これは条例には何も書かれてないです。
- ないのにあかんって言われる？
- ないのであかんって言われます。というのは、どうも目的外使用みたいなことが言われていますね。目的外使用ではないんですが。例えば何がいくらって載っているわけです。それで、それ以外のものをしようとしたときに自分たちからすると目的に合っていると書いていても、それが理解されていないと、合っていると書けないわけです。特に実費でしか取れないっていう話になってきます。
- 上乘せしたらあかんってわけね。
- そうそう。手数料部分っていうのは、地方自治法で手数料を条例に載せないといけないっていうのが確かあるんですけど、そうすると手数料に関してはそれがいくら非営利の活動であってもやっぱり条例に載せないといけないというようなものなんですね。
- 自治法上、市民に負担を強いるものは全て条例に書かなくてはならない。ただ、それを書いてないから違反は違反なんですけど、書いてないから絶対にダメという話になるの

かという一概にそうでもない。まだまだ日本全国的に見て書いてないところがありますから。

- やはりそれがきちっと決まってくるまでの間はできないねっていうパターンで思考的な形がそのまま慣例で残っている。
- なるほど。ありがとうございます。例えば自分たちが経験した条例に規定があって、そのほかで何か料金を取る、手数料をとる場合は別途定めるみたいな一文が、例えば案ですけどね。そういうのが条例に入っていたらひょっとしたら指定管理者と県とで協定して規定みたいなのを作っておけば、そういうのも可能になるのかとか。
- でも、市民が運営したら上乗せして物を売ってもOKだし、営利目的じゃなかったら。そういうのが当たり前と考えられるものを作れないの？
- そうなんです。自分も確かにその当時、立ち上げるときとか、協定書を組んだりとかっていうときにすごく思ったのが、NPO が例えば指定管理者になるんだったら、そういうのを外したほうがいいよねと。ただ、もし企業になるんだったら、これ、利用するよなというのを考えていたんです。
- そこで、私が思うのは民間委託されたら市民はこれから会議室は有料になるのかと。今まで無料だったのに有料になるのかっていうのも県民の福祉の向上のために民間委託するわけなので反することでは？それも考えないといけない。物を売ることはいいけど、今までだったら物を売れなかったけど、これから民間委託したら物が売れるわけでは、だけど利用者がお金を払わないといけないというのは矛盾するでしょ。だから、そこをちゃんと整理しないとイケないのではないですか。
- そうですね。その辺とかの料金とかいろんなことも、たぶん決めていかないと。ただです、だいぶ深く入ってしまうんですけど・・・
- 私が言いたいのは、今さっき、委託費が半分で利用料が半分、まあ割合はわからないけど両方で100%になってると言っただけで、それはここでは成り立つのかなと疑問に思っただけで、だからそこは別問題。今いったことは例えばの話で、それを深く追求されると他のことが見えなくなるから、そういうことも問題としてあるよということを頭に入れていただいたらいいと思います。それでそのことをどうするかっていう議論の場になったらすればいい話で。
- そうですね、それが全てって話ではないですね。
- ここの委託は、委託されたものは、お金取って会議室の運営ができるかと、今より落としたらいけないとするならば有料はなしだということもありうるわけだからね。無料じゃないとダメだということが前提にあるんだから。
- 多分、自分たちの感覚ですけど、サービスが変わるということに市民はすごく敏感です。特にものが有料だったのが無料になるのはいいんですけど、逆はすごいですね。それで料金が変わらないにしても、民間が変わるのが決まったときに、ある若いいつもそこを借りている人（インターネットでやりとりをするような子たちなんですけど、）が

「私使えなくなるわ」っていうのが行き交ったみたいなの、どこからそんな噂かと思うくらいなんですけど、確かに民間に変わるっていうのはすごい、利用する人にとってはかなり衝撃は大きいんだろうと思います。特に民間の人はそうですね。で、うちの場合は指定管理者になってから、伊勢市が使うときはお金を払うようになりました。というのは強引に担当者が頑張ってくれたので取れるようにしてもらったりとか、そんなのはさせてもらったんですけど、やっぱり一般の市民には衝撃、どうなるんやろっていうのが先に立つんではないかなというのが印象ですね。なので、そういう意味ではやはりここもオープンで

- 伊勢との大きな違いは、伊勢はゼロから出発。ないところに設置した。でもこれはずっと引き継いでいくわけだから、どう引き継ぐかっていうところも問題なんです。だからないところにできた、あるところに引き継ぐ、この違いは大きいと思います。
- すごく大きいと思います。あと、もう一つあるのが委託。自分たちはやっぱり活動するためのお金を集めるために、指定管理というのはもうお金が決まっていますから委託をいろいろとってきますね。そうするとそれを嫌がりますね。それが確かに中間支援としての活動だけじゃなかったりもするので。
- それは問題やろな。
- ただ伊勢市としてみたときには、これは多分三重県としてみたときにも当てはまるのかもしれないんですけど、三重県の事業をするというのはあんまりないんですよ。だから逆にいうと三重県としてみたときに。
- コンビニネットとしてするの？
- 例えば伊勢市民活動センターとして三重県のパンダファンドとしてもそうなんですけど、中間支援の仕事ですよ。伊勢市民活動センターとしてしてるけど、それは三重県全体のことをしているの伊勢市としては嫌がるんですよ。そういうのをすると三重県からしたときに、例えば全国フォーラムをしましょうとか、全国規模の事業をしましょうということで国からお金を持ってきてというようなこともひょっとしたら嫌がる場合もあるんじゃないかなと。ものによってかもしれませんけどね。
- 普通、委託事業であればですね、委託内容を的確にやってもらえたら他のことをやってみえても、他のことを受託されてもいいわけですからね。まず問題はないので、それは本来問題ではないと思います。
- それから私、もう一つ加えて言うと、今室長から言われたことをしたとするでしょ。それがセンターの運営にプラスになっていくことですよ。任された管理はちゃんとしていて、それ以外の全国フォーラムをここでした、東海三県のフォーラムをした、そのことはこの三重県のセンターが関わってたり情報の行き来が厚くなることだから悪いことじゃない。だからそういうことは、考え方に問題があるだけで。
- 今までの市の考えかたと県の考え方ですね、県というのは全国ベースの中で仕事をしてくれてるんですよ、どっちかという。全国の県が何やってるという情報の中から仕事

をしているというのがけっこう多いんです。市はどうかっていうと基本的に市の中の、中はどうなのっていう・・・よそをまねてするっていうのは基本的に自分らの中になんかいないっていう、今までの経験値から行政やってるので、2000年以降については、県みたいにしてその情報をいかに中の市民の方々に提供しながら、また中の情報を外に発信していくかっていう話に徐々に慣れていってるんですけども、たぶんこの辺だと市っていうのは市の中のことをする。行政はね、中のことをするものであって外は一切関係ないって言う考えなんだと思います。たぶん今言われてる、だからこの分は必ず三重県さんのほうがもっと開けてた。だからその部分については問題にしなくてもいい気はするんですけど。

- ・ あと、行政の職員ですね、職務専念義務という考え方があるわけですよ。
- ・ 単純にそれを嫌がっている人が・・・。その辺が指定管理者の問題かな。制度とかその辺。

【地域の中間支援センターの課題ワークショップ】

- ・ ちょっと制度上の指定管理者の話ばかりになっているんですけど、実際まずやっていきたいのが指定管理者としていどうこうという前に、まず中間支援がどうあるべきかっていうのを実際確かにこういう経緯も少し何となくわかったっていうぐらいのところだとは思いますが、それを踏まえながら今後どんなふうにしていくと三重県の中核になる中間支援センターがどんなふうになっていくといいのかなというのを考えた中で課題みたいなものを出していきたいと思うんですけど、ただその前に今実際の市町で中間支援っていうと研究員の人、あとはここですね解釈の仕方がいろいろあって外れる部分もあるという考え方もあるんですけども、まず市町のほうで少し、今の課題というんですかね、その辺からひょっとすると三重県との兼ね合いっていうところも出てくると思うので、まず一回そちらの市町の中間支援センターの課題って今何かというのを書いてもらいたいと思います。中間支援組織としてでもいいと思います。別にセンターじゃなくてもいいと思うんですけど。課題っていうものが黄色で書いていただきたい、もしこんなふうにするといういいなっていう提案とかアイディア的なものがあれば青で、それ以外のことで何かあればピンクということで色分けをして5分くらい・・・
- ・ まず中間支援センターという言葉、内容を知っている人が少ないのではないかな。確かたぶんそうですね、これ根本的なことではないかなと思ってるんですけど。中間支援センターってどこの仕事？って。これはもう個人的な意見で。あと、行政組織としての位置づけがない。間接の場合、ない。
- ・ 市町の中間支援センターというのは公的のことを言っているの？
- ・ その前も一緒なんですけども組織の中でどういう位置にいるのっていう話が、けっこう理解できてない。行政って。間接の場合ね。縦は縦でお付き合いしてなっているんです。なおかつセンターを置くのかみたいな話が・・・だからあるんですよ、お付き合い

いとしては縦のお付き合いがきちりとできている部分があるので、その部分と総合的なセンターとの位置づけというものの整理ができていないというのはけっこうあるかなど。けっきょく生活環境の仕事だと。ではないよね。

- それでは中間支援できないでしょうというね。それで自分もふと思ったんですがちょっと違うかもしれないですけど条例上書かれているけど、本当に行政の職員は理解しているのかなど。まあこれは伊勢市ですけどね。本当に伊勢市は作る時なんかでも条例条例とか書いてありますけど、自分らもあんまり意識してないから、あつてないような意識しかないので設置ビジョンの方が設置目的みたいな感じで・・・
- それはここも一緒じゃない？NPO室っていうものが中間支援的な役割をしている。
- ちょっと余談でしたけど
- もう一つは、今言われていたんですけど中身として、その上も中間支援っていうのは何っていう話が落ちてないので
- 結局場所があればそれでいいんでしょ？
- 行政としてはそんな考え方がありますよね
- それがちょっと無理があるので、場所さえあれば、もう民間に投げとけばそれでいいし、別に行政が関わらなくても中間支援センター作ったやんという作っただけ論というのがけっこう行政の中では多くなっている気は・・・いくらでも予算の使えるところはなんぼでもしてくれていいけど周りが作り出すと、今の現状としては各単独縦割りの場所の出先機関みたいな形の、という気はします。
- 自分の感覚としてはですね、さっきの話になりますけど中間支援組織っていう機能があつて、場所っていうのは、ないよりはあつたほうがいいっていう考え方ですよ。確かに行政は場所があればOKみたいなところがあるよねっていうのはですね。これは市町ですけどね。では、中間支援の内容はどういうことを支援しているのか。これはどなたでしょう
- 中間支援っていう言葉自体よく聞くんですけど、今までもいろいろ聞いて教えてもらってはいるんですけど実際場所、まあ場所はいいやろっていう話でしたが、要は何をするのか本当にわからない、現場を知らない。その程度で僕自身は終わってますので、そういう意味で・・・
- その中間支援は何たるかというものをこれから考えていこうというところだと思うので。その前にまず市町を、という課題ですね。ということでちょっとこれは全体的には別の・・・あとこれは何を指して設置しているのか理解していない。これは誰でしょう
- 同じことで書き方を変えてみたということですけども、これが表に出てないということで設置しましたよというのをパフォーマンス的にはするんですけども、結局これを設置することによって最終的にどういうものを目指す、まあ市なら市が最終的に何を指しているのかという話が見えないんですね。言っているのもそれは担当が言っているだけで

ないっていうのがあるので最後何を目標しているのか、何をするためにこれを設置しているのかという話がわからないっていうのが実際問題あるのかな。

- お役所仕事みたいなのという話ですかね。はい、この辺が何となく全体的な中でのものちょっとまとめてみました。あと資金調達、たぶんこれも同じまあこれは人・金の不足、これはだいたいわかると思うんですけど、資金調達は・・・言葉どおり、どうやって資金を調達するか。もしあれだったらコメントも
- これは民の立場でいうと、民営だったら資金の調達っていうのが非常にしにくいジャンルかなと思います。分野が広すぎるのでそれだけを助成金なんか申請してしまうと、例えば市民農園の活性化という農園めぐりとかになってしまっ大変な目にあったり、とか、だから調達は難しい。あと行政の方で言う幅のある使い方ができない。公設なんかを見ているとなんていうところだろう・・・と思ったり。
- はい、まず2つあるのは基本的には調達するのが難しいのが中間支援、これはたぶん中間支援をされている方はみんな同感だと思うんですけど、中間支援ってすごくあやふやなものなので、なかなか助成金なり委託だとかっていうのはけっこう具体的なことを求めることが多いので資金としてなかなか難しい世界だというのがあるみたいですよ。
- 資金が得られるような事業がなかなかないんですよ。
- あと、人もお金もなかなか集まってこない
- どうしてもかなり専門性っていうか、ネットワークを持ってた人が。ある程度の知識があつてというような人とかが必要なんですよ、中間支援を回していこうと思うと。なかなか人材が簡単には見つからないという。
- そうですよ。それであと、ここには出てないけど、調達に繋がるんでしょうかね、育成する余裕がないというのがありますよね。あと、続々といきます。これは事務局経費の確保・捻出。
- あの、民設民営のところは余計にそれが非常に厳しいというか、ほとんどどこでお金を稼ぐかというのが唯一の大命題というふうになっているんです。で、現実的にそのところでみんなヒーヒー言っていかな、というところがあります。
- そこらへん、たぶんみなさん同じ問題ですね。ちなみにですけど、今コンビにネットのやり方で言うと、自分らはお金をくださいというより仕事をくださいっていうことを考えています。基本的に。ひょっとしたらそれが中間支援の仕事ではないかもしれないけど、仕事をしてスタッフが何人か確保できるとその中で人的流用ができるんですよ。そういうような形では考えてますね。コンビにネットは。あと、ジャンルが広すぎて助成金等に応募しにくい。これか、聞いていたのは。あと、人材育成する余裕が・・・これはさっき言っていた。もしこれ書いてもらった人何かあれば。いいですか。資金の問題っていうのがやっぱり大きいということがわかってきましたね。じゃあ次のほうへ移っていくと中心人物への負担の集中。これも何か。
- いろんな会議に誘ってもらっても、やっぱり会の下のほうの方が行ってくれたら自分の

活動ジャンルの話は熱く語ってくれるんですけども、そうじゃない組織自体のことを聞かれたらちょっとわかりません、みたいなかんじになってしまうので、そうなるともう会議に行きたくないわとかってなって、けっきょくは代表なりが行くことになって。今だいぶ絞ったんですけど一時は 60 いくつの会議が入って、今はそれでも 40 くらい。

- これは確かにありますよね。これもたぶんこの辺との絡みがあるのかなと思うんですけど、やっぱり育成する余裕がないっていうのかなと。
- やっぱり個人経営みたいなのがね。
- あと、その情報が来ないので取りに行かないといけないっていうのがあるんですよね。待っていても来ない。それと、ちょっと行ってというと浦田さんが言ってくれた問題が出てきて、ちょっと行って、って頼まれたのに旅費も何もないのに、っていうのが出てきたりするんで結局はもう文句のない自分が行くしかない。
- 私もよくあります。お金がないから自分で行くわっていうのはよくあります。すみません、今回は。
- その下の事務局員の確保、資質向上とも同じなんですけどもやはり、事務局の経費が確保できないと、どうしてもそんなにボランティアにかかわってくれる人っていうのが限られてしまうので本当に少数の人しか関わってないという状況があって、そういう状況の中で運営をしていこうとするので本当に、委託の事業で稼ぐといわれましたけど、結局人が少ないからそれに手を出すのもっていう部分もあったりして結局自分が苦しい運営をするという、何か悪循環みたいな部分があるので・・・
- 非常によくわかります。骨身にしみてわかります。取りすぎたみたいところで首が回らないというのも確かにありますね。あと、行政との共同コーディネートができること。これはどなたでしょうか。席を外しているみたいなので置いておきましょうか。人材の確保、これは？支援する人の能力がない、人がない、これは？
- どこともそうなんですけども、指定管理してるところもそうなんですけども、強制してないところについても人ギリギリで回すパターン、で上にもあるように質、結局人を育成していくだけの余裕が、もし官に場所があるならば場所を管理するだけで終わり。という形になるので実質的に必要な機能を備えていくだけの能力を開発していくとか、育てていくっていう方に対する部分が、まあお金も含めてですけど、結局財政理論みたいところでカタがついていて、何のためにこれをやっているのかというところが見えないというのが市でもけっこう多いかなと。
- この辺もだいたいみなさん同じようで、ちょっと抜けていたので行政との協働コーディネートができること。能力がいる。
- やっぱり特殊なジャンルだと思うんですよ。私も関わらせてもらった方々なんかで例えば、DVの駆け込み寺のようなシェルターをやりたいということで、一つ建物を借りてオープンするときに、そこにセンター長みたいな役割で関わってもらおうかと言っていた方が、新聞記者さんの取材時にこんな場所を作ったのでみなさん利用してくださいと

言ってしまったんですね。ここシェルターに活用して、そんなん言ってしまったらシェルターには使えませんよね。だから思いがものすごく強すぎたりしても返って支援できないんですよ。相談にきてくれたら全部自分の会に入れるんです。だからそういう方とかは、やっぱりちょっと困る。やっぱり中間的な位置でものを見られる人が欲しい。

- それはどこでも言えると思います。コンビニネットの人がそうなんですけどね、実はあまり何かに特化してないもので案外開けているんですよ。自分もコンビニネットなのでアレなんですけども。そういう何かに特化したNPOの人っていうのは逆に難しいっていうところがありますね。これがだいたい、人材のことに関する課題ですね。
- ここの県センターの存在というか役割の問題で、ひょっとしたら市町のセンターさんのネットワークが強固になればこの役割が終焉するのではないかということがあってですね、その辺りを充実していけばという・・・
- そうですね、やっぱり市町のネットワークって大事だと思います。たぶん一生懸命、交流会と勉強会の場を開催してもらっているんですけど、やっぱりすごく役立っているというのが私の実感なので、こういうネットワークというのはやはり、それは市町の人例えば津に集まってくるなりっていうのは大事な違うかなというのは思いますね。ただこれ、ネットワークっていうのはもっと他の意味もありました。
- 中間支援の活動をしようと思ったら、自分が知らないことは知りませんと言うのはご法度かなと思うんですね、なので知らないことを何とか情報を探し当ててというか、広くネットワークを作って、だから自分が知らなくても知っている人を探して紹介しようというのが主旨だと思うんですね。なので、そういう意味でのネットワークが作れないと小さいもので終わってしまうかなと。
- 今の話にも関連をするんですけどもなかなか民設民営のセンターなんかではですね、余力がなくてその方法がなかなか自分自身収集できていないなあというふうに、情報のアレもありますし、ネットワーク作りもしたいという気持ちはあってもできてないかなという感じがある。
- まだまだ課題があるんじゃないかなというところですね。自分もなにか、防災のことならこの人、みたいに直接お願いしますという頼み方で、やっぱりネットワークは大事ですね。ということでもう一つ次にいくと他団体、組織との情報交換、これも同じような。
- 伊賀は非常に仲良くやっているって、いつもあちこちで言っているんですけども、でもこれもものすごく派閥みたいな変なものがあって、どこが呼びかけた案内状をもらったけど、何であそこに呼ばれて行かなあかんのとかいう変なものがあったんですね。だからここの組織には民の立場で呼びかけたほうがいいよねとか、ここには行政から言ってもらったほうが来てくれるよねとかいうのを使い分けてやっているんですけども、ただ一番のネックは市の職員さんの参加なんですよね。でも、伊賀は自治基本条例持っているんでどうしても入ってきていただきたい。でもそれが理解されないんですよ。だからそこら辺の情報共有のための連携みたいなものの弱さがすごく感じます。

- ・ 町の役所との部分との連携というのがもつと強くないとなかなか難しい問題がいっぱい起こってくると思います。
- ・ 今までだったら好き勝手に支援できたんですよ。例えば、交通手段のない方に何とかしてあげたい、「あんた運びさ」っていうのが今だったら、そんなこと言ったらえらいことじゃないですか。だからそういう情報もきちんと知っとかないといけないし、そうするとやっぱり市の担当さんに聞いてって言うのが「何であんたから言われて教えたらなあかんの」って言うくらいでは困るので、情報が欲しい。
- ・ ありがとうございます。この辺情報とのこととも絡むことかもしれないですね。じゃあ次進んでもらって、市町単位で中間支援を担う団体間の交流。これは？
- ・ 社協で市町の社協の話聞いて思ったことをそのまま書いてしまったんですけど、やっぱり社協に関してになってしまいうんですけども隣の市との交流、**社協同士の交流がようやくというところがまだある**。更にそれを業者の方が入っていただいたりとか、例えば今の中間支援のセンターの方が入っていただいたりということに対しての抵抗感がまだまだ、入ってこないでというところ、お互いもっと知る機会もないし、お互い情報交換する場もなくて入ってこられてしまうという認識がまだまだ取れてなくて、そこは何とか取り出していけないといけない。そのモデルが伊賀だと思うんですけども、ただどうしても伊賀は特殊な場という、そこは特別だからってなってしまうんです。
- ・ 社協から見ると本当に特別なところって見えるんですかね。
- ・ あの県民センターも含めてですけども垣根がないといえば垣根がない。単純に。ずっとやってくれていた人がいたからこうなるんですけどもその中で今、まあ社協さんの役割もそうなんですけども今大きく展開しているのは市計画でプロジェクトチームを組んでのが出てきて社協が事務局を持って推進を民を入れてやるっていう会議が5つか6つ立ち上がっているんですよ。こうなってくると、福祉という視点から全てやっていこうかということでプロジェクトチームが立ち上がって、事務局を社協が持ったもので、伊賀市の社協はどっちかと言ったら放し飼いのところがありまして好きなようにできるんですよ。まあ極論でいけばね、事務局長は私と同年ですから。でも放し飼いにしている社協が事務局を持って、計画を立てたことをまことに進めていくっていう仕組みができてくると今言った特異ですよ。みんなが社協の事務局のところ、行政と民が寄って行って話しようかっていうような話です。会議自体成り立たないのが普通ですけど。
- ・ ありがとうございます。社協、これちょっと前回の準備会するときにも話が出たんですけど社協って中間支援とイコールになるんじゃないのみたいな話も少し出たんですけど、現状は・・・この辺たぶんいろんな意見もあるのかもしれないけど、ひょっとしたらこの社協はどうあるべきみたいな、ある意味やっぱり大事な課題っていうのかな、この中間支援を考えるときにはどういう立場でいけばいいのかっていうようなことそのものが課題なのかなというのはありますね。ぜひ、懇話会くらいになったらオブザーバーで・・・ということで、これは課題ということ。次は行政との連携。これは一緒

ですね。それと、中間支援病の克服。これは何かおもしろい

- この病気って必ずみんななられたんじゃないかと思うんです。活動に足を踏み入れられたら。というのは結局「この仕事なんやねん？」とか、終わりがありません。自分の中で線を引けないし、ここからここは仕事で、ここからはプライベートっていう分け方ができない。休みとかもないです。現場で呼び出しがかかったりお問い合わせが来たりして。それで「そんなことまで聞くか？」っていうようなこととかが出てきたり、あと例えば代表格の方が出てきたり、理事長さんとメンバーとかいう現場にいない方との差っていうのがものすごくあって、現場の方が特にこの中間支援病になっていくと思うんです。他の団体さんと話をしても、みなさんジャンルがはっきりしているのでこちらから見ると、「その問題はあの団体と連携すると克服できるんじゃないか？」と言ったら、「何も知らんのに言わんといて！」とか怒られて、結局あとで「この前言っていた話紹介して」と言ってくれることになっても、一回はこてんぱんに跳ね除けられたりして「私の頭おかしなつたのかな？」って思う時期があったんです。そういうのが他の団体さんも現場の職員さんから聞かれるようになったというか、一時電話をたくさんいただいてやっぱりこの病気はあると思ったんです。そのためにネットワークがあって克服。やっぱり同じ立場のネットワークっていうのが1つ欲しい。
- ありがとうございます。中間支援病、いいですね。これたぶん何となくあると思います。みなさんあると思うんですけど。あっ、NPO 室もそうですね。同じですね。
- 会議のときに隣に座っていた人は誰?とか、番号案内の問い合わせまで。
- なかなかこれはいいネーミングです。そういうこともあります。じゃ次いくと、合併して広くなった地域の把握。
- 津はですね、よく市長とか議員が言うんですけど、面積7倍・人口1.7倍なので相当広がって、しかも奈良をまたがないといけないうちも出てきたというくらい広がったんです。去年ですね、前任の川端君がゼンリンの新しい地図を買って、これから合併して広がった地域にも出て行っていろいろ調べてくるようなことをしたいなとかっていう話をしていたんですけども、結局外に出る余裕がなくちょっと積み残しになっているんですね。けど津市の中心を基点に生活点は勤務とかでいらっしやっているので、あの通勤通学で。です。ので、やっぱりそういうところとのネットワークであるとか情報把握であるとか、またそういった地域はいろいろ支援のコミュニティがしっかりしていて、NPO それ自体がどうなっているのかがまだわかってない状態なもので、そこら辺をもうちょっとしたいなと思っています。
- こういう、まだわかってないというのがもつと顕著にあるということですかね。そうですね、合併したところはこの問題っていうのもあると思います。それでちょっとネットワークに戻るんですけども、これは中盛さんからのアイデア。6割ネットワークとかいてありますが？
- これは、ずっと中間支援病を克服しながら感じたことなんですけど、例えば緑の活動だ

ったらガチッとくっついてしまったりして強力なネットワークを作ろうとするじゃないですか。それをすると、あの時手伝ったたのになんでこれにはこないの？とかいうのがけっこう起こったりするので、やはり6割くらいは近づくんですが、あとの4割の距離を大事においとくというのが中間支援には絶対に必要なと思います。

- これもどうですか。ただ難しいところがあるんですけど、専門分野によって例えばITのNPOなんですけどその切り口で中間支援をやっているんですよ。こういうやり方っていうのはけっこううまくいったりするんですけど、ただやっぱり現場に近いようなNPOだと、たぶん伊賀市とかは悩むところがあるんじゃないかと。6割くらいの方がやりやすいというのは納得すると思います。じゃあ次、利用する参加する団体の固定化。
- 先ほどの人材の不足とも繋がるんですけども、割と桑名・いなべの今関わっている人たちはけっこう仲良くやっているほうかなと思うんですが、その反面関係が固定化してしまって新しい人がなかなか入りにくいという壁を無意識のうちにつくってしまっていると思うんです。それと、やはり中心で動いている人たちがあまりにも忙しくてネットワークをこつこつと広げていく、外へ出て行くという方向にはなっていないというようなジレンマですね。
- それと、次は私のと関連するんですけど
- 誰かに会えて、自由に話ができる場所があること、人がいること。そうですね、難しいところはあるんですけど自由に運営していて市町、まあ県だと割りといろいろ入りやすいところとか、あと場所のね、ここのアストっていうのもあるんでしょうけども、たぶん市町だとなかなか入りにくかったり、というような、ここなんかと比べたらもっとあるのかなと思いますね。それがたぶん市町の現状で実際に人自体が少ないですよ。利用する人自体のマスが少ないのでこういうことっていうのは、特に県とかこういうところよりはもっと起こりやすいのかなと。
- 私、中間支援組織のことを念頭に置かないで、センターのことを念頭に置いています。
- そうですね、場所としてということですね。
- 例えば伊賀のセンターもそうだし、亀山もできたでしょ。そういうところは人がいないと人が集まらないですよ。
- 根本的なところで言ったらそうですね。絶対言えると思います。それで今追加で公設の場合。ネックでもあるかも
- 民の場合は例えば〇〇ちゃん嫌いやから行かへんねんっていうのは有りだと思うんですね。どうぞ、来なくていいよみたいな。で、何かあったときに来てくれたらいいからっていうところがあると思うんですけども、公設の場合はこれは許されるかっていうのがあると思うんですね。すごい濃い人がきて、あんな人がいたらもうそんなセンターは使えへんで、っていうような感じになってしまっていたら、何のためにオープンしたのかわからないとなると思うんです。だからこの辺りは選考委員さんをお願いをしないといけないのかもわからないんですけど、これはすごく大きかったです。

- これ自分もあつたんですけど、うちはコピー機 10 円なんですよね。それで、どこだかが 5 円でできて、何でここは 10 円なんやっかっていってくる人に対して、じゃあそこでやっってくださいって。たぶん行政だと絶対に言えないと思うんですけど、うちは別に使ってもらわなくていいって言うてしまうというのはありました。なかなか言いにくいところはあつたけど、これはそういう課題もあります。
- これ、私なんですけど。
- 設立相談、経理相談、税務相談。
- これは提案、課題？これが不足しているかどうかでことですか。
- こちらへ来てですね、いろんな申請書類とか情報なんか見ていると課題のある書類が多いんですね。それと、税務なんかでも税理士さんに 25 万も払っているような団体さんとか、けっこう税理士さんにお金を払っていたりして非常にもったいないなと。その辺ですね 設立の相談とか書類の書き方とか税の相談なんかも中間支援さんがいろんな形で とか勉強会とか持ってもらえると、うちも非常にありがたいなということで書かせてもらいました。
- この辺はたぶん県にいてこういうのをしてくれるのかもわかりませんね。自分たちはあんまりこういうのに気がつかないというか。これは自分だけかな？自分が勉強しないといけないのかな。伊勢市の場合は相談として、伊勢市からお金が下りてくるんですよ。でもあんまり相談するとよくないなと思ってちょっと・・・でも課題は確かに感じると思います。そういうのはもっと市町が相談できればもう少し解決するのになという気がします。あと、悩みの解決のための相談に乗ってくれる人がいること。
- つまり上のと同じことなんだけど、運営だとか活動だとかになぜそういうかと言うと、人が寄ってきたときにその人を離さないノウハウを中間支援組織は持たないといけないという意味ですよ。人が悩みを相談してきたときに、きっちりと掴んで離さないような人材という意味です。
- 後の人材のところにも絡むところかもしれないです。では次、情報の受発信。
- ネットワークのところでも少し発言したんですけど、なかなか人手不足というような要因もあるんですけど、そこがやりきれないんじゃないかというふうに見れるところが多いかなと感じています。やはり本来もっと情報を集めることも必要だし、発信をしていくことも必要なんだけど、手が回りかねているというか、そういう傾向があるかなと感じています。
- まあ、情報の受発信ってネットワークにちょっと近いような形ですね。ただ、情報の受発信はこんなのでいいですか。というか、みなさんはこの辺はやっているんですよ。差はあるかもしれないけれど、自分の意見的には情報の受発信っていうのはかなり大きい部分を占めているような気がするんですけど、その辺どうですか。あまり重要ではないっていうところもあるのかな？重要でないってことは思ってないですよ。技術というか、そういうノウハウみたいなものがないところもあるっていうのが課題かもしれない

いですね。次、認知度不足。一般の人々に場所・機能が知られていない。

- 完全に市民活動と関わっていない人としゃべっていると、やっぱりまだまだ一般の市民の人には市民活動センターっていう場所が知られてないなというのを最近よく実感するっていうのと、さっきチラッとそこの話にも出ましたが行政の中でも市民活動センターを知らないという人もいたりするので。この前、ある一部分を担当している部署があるんですけど、そこにチラシを置きに行ったら、何か胡散臭いとか言われて、あんた委託しようと思っているん違うの？みたいなことが一回ありまして、すごく憤慨したようでスタッフが帰って来たとうことがありました。それで、合併して人事がグチャグチャになっているので町村部から来た方が対応したんじゃないかというようなことをおっしゃる職員さんもいましたけども、でもまだまだ知られてないし、機能も職員の中でも市の中でもまだまだ頑張らないといけないなど。
- この辺はある意味、課題の部分かもしれないですね。情報の発信というのは、こういう認知度のところにも重なるところかもわからないです。では次、民の自由さ柔軟さ、公の部分を守る姿勢。
- これは上と下が民は民、公設は公設みたいな民設と公設の真ん中に線があるんですけども、これ民だったらけっこう、「そんな相談にきたか。でもやってしまおうか」っていうのってあると思うんですね。それで、「こんなことも対応できちゃった」っていう事例ってたくさん毎日生まれる。今日も電話があって、「何年前に〇〇で行った生麩を食べられるお店を教えてください」って言われて、生麩って伊賀で聞いたことがなかったんですね。それで、私が知らないだけかと思って、「それってどういうところでした？」ってもう少しリサーチしたら伊賀のまちかど博物館のひとつに行ってみるときに連れて行ってもらったって言うので、その博物館に連絡を取ったら、「知らん」って言われて、結局生麩とお豆腐を間違えてて、豆腐田楽の話だったみたいなんです。だから、そんなとこまで調べるの？って他の方に言われたんですけど、でもこっちにしたらその情報持ってなかったなと思ってもっと欲しいと思ったんですけど。だからいろんなことも何とかやってみるわって思うプラス思考が民の良さかなと思うんですけど、公設のほうは、それあんただけやでとか、やったるわっていうのをやってしまうと収集がつかなくなる。だからけっこう誰がセンターにスタッフで入っても、知り合いの方って来るじゃないですか。そうすると知り合いのよしみでしてというようなことをきっちり、それはできないっていうことをどこまで貫いてくれるのかなっていうのと、それと説明責任っていうのは何に対しても、それはうちのセンターではやめてくださいっていうようなことがあった場合に、きちっと言えるかっていう強さというか、姿勢。私もやくざの人が来てくれて、もう足がぶるぶる震えながらも「それはおかしいです」と言ったんですが、「よく刺されへんかったな」って、一ヶ月くらいはメンバーさんが交代で電話をくれたり、5回コールして出なかったら一番近い人が見に行く、それで死んでるかもって言ってしてくれたことが過去にあったんですけど、やっぱりどうしてうちのセンタ

一ではそれを受け入れられないのかっていうのを私嫌やねん、そんなんかなんねんじゃないきちんとした説明ができる。だから相手によって、弱くなったり強くなったりじゃない強さみたいなものを持っていないといけないかなと思います。

- ありがとうございます。その他、役割分担
- これ書いたときに色を間違えたと思ったんですけども、役割分担はいろんな形態で立ち上がっていくセンターがあるじゃないですか。うちらなんかだと民設であって、それで前川さんところの公設があってというね。そこで、公設ができないことを民がしたらいいやんっていうことで、簡単にできてしまうことがたくさんある、そういうことを自分たちのためにするんじゃない、伊賀市の何か良くなるようにっていう視点で見るから、そういうものはぜひお互いに資源を使いあって、一番良いところのポジションから発信したら。そういうネットワークっていうか、みんなが役割分担をするために連携するんだというような気持ちを持てればいいのかなど。
- ありがとうございます。やっと意味がわかりました。役割分担って何かなど。はい、だいたい一通りみんなザクッとまとめてみると、ちょっとこの辺実は分けてしまったんですけど、認知不足的な課題とあとは資金の問題ですね、あと人材とかの問題。あとは連携とかネットワークの問題、あとこれは地域的なものかもしれないですけど合併して地域が広がった問題、あとは固定化の問題でまとめるといいかな。あとは、相談とか行に関する問題、情報の受発信の問題、あとこれもちょっと大きい問題かもしれないですけど公でやるのと民でやるっていうものの大きなライン引きという課題がこの辺に入っているかもしれないです。これは今市町のあたりでの課題。

【三重県の中核となる中間支援センターの課題ワークショップ】

- じゃあこれ県の中核支援というのはこのあたりでどうしていくのか、もう一つ上のほうで全国的な考え方をする中でどういう位置であるべきかというのがたぶん、三重県の中核支援センターというもののあり方ということになってくると思うんです。それで申し訳ないです。今日は時間がないので課題を書いてもらってもいいですか。ちょっと、まとめる時間が今日はないと思うので今度は、三重県の中核となるべき中間支援センターとしての課題・アイデアみたいなもの。
- これ、前提がとっても難しい。今の市町の分についても、センターの機能も出たし、センターを運営する組織のマネージメントのことも出たでしょ。それをじゃあこれは市町ので今度は県の中核をするぞといわれると、場所も書くし運営の組織体も出てくるということになるでしょ。それもごちゃ混ぜでいいの？これ場所と組織も今まで出てたと思うんです。だから今から書くときも具体的に、この三重市民活動ボランティアセンターのことをイメージして書く？
- まずこの場所で、これは県は替わられないですよ。替わる可能性がある？アストでなくなるっていう可能性はないんですよ。なので、まず考えていたように時間、まあ本当はもっと柔軟に考えるのがいいのしょうけど時間的なものも考えて、場所は

ここ。ここで行われる中間支援センタとして考えてもらっていいと思います。ここで行われ部分でどうあるべきかっていうふうに考えてもらった課題をこれと同じような形で書いてもらって、今日はまとめまでできないんですけど、それで終わりにしたいと思います。そして、またこの辺で整理させてもらおうと思うのでそれをお願いしたいと思います。

【まとめ&次回の日程】

- ・ はい。だいたいいいですかね。じゃあ今日はちょっとざくっとしかまとめなくて、また細かくは次回。次回は 20 日ですね、まあまた後で確認しましょう。一応ですね、細かいことはもうしていかないけど、何となくは分けました。ちょっとわかりにくかったのも本当は聞いてしないといけないけど、何となく、ここのセンターそのもののあり方みたいなところでちょっとまとめたのと、後はネットワークの部分ですね。それと連携の部分、あとはいろんな情報だとか、市町の NPO との連携みたいなところを書いていますね。あとはこの場の実際のサービスのなところとかっていうのが出てきています。あとはもうちょっと戦略的なことだとかそういうあたりも少し出てきていますので、この辺で次回はもうちょっと掘り下げて、どんなふうなセンターがいいのかなという、この辺とたぶん連携してくるところが起こってくると思います。それでここでもけっこうたくさん出ていたんですけど、市町との役割分担っていうのが全体のところでもいくつか出てきているので、この辺たぶんひょっとして課題になるところっていうのを保全する役目というのもあるかもしれないですし、あとは伸ばしていくようにこうしたらどうですかっていうのがこの辺で入ってくるかもしれないので。これ、メーミングリストを作ったほうがいいですよ。これは一度まとめて整理して配信します。じゃあそんな形で次回はもうちょっと細かく掘り下げていこうと思いますので。本当はこれ最後までいきたかったんですけど、送れてしまって申し訳ないです。
- ・ じゃあ次回は 20 日の 1 時半からということで。あとただ、メーミングリストもしているので忙しくてこれない方もいると思うので、その辺はまたメールとかで確認しながらしていけたらと思っています。すいません、時間もちょっと押ししてしまいましたが、みなさんありがとうございました。これで第 1 回めということで終わりたいと思います。ありがとうございました。